

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市荒町児童館
2	指定管理者	特定非営利活動法人ワーカーズコープ
3	指定期間	平成27年4月1日から令和2年3月31日まで
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 30,232人 (前年度比 93.3%)          平成30年度 32,395人          平成29年度 29,739人          平成28年度 27,407人</p> <p>《事業》          児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業</p>
5	収支の状況	<p>《費用》 ( )は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者に支払った費用 39,444 千円 ( 34,012 千円)</li> <li>その他市が負担した費用 0千円 ( 0千円)</li> </ul> <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用料収入 0千円 ( 0 千円)</li> <li>その他収入 0千円 ( 0千円)</li> </ul>
6	利用者の声	<p>《実施状況》          利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。</p>

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。今年度は「回文団扇」活動を通して大きく地域に貢献し、歴史的・文化的に価値のある地域の特性を生かした事業を展開した。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。児童クラブの児童が、電力を使わない涼として打ち水をして練り歩く地域の祭りの稚児行列とその事前学習に参加し、環境への理解を深めている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	子どもが主体的に活動に参加するため、子どもが提案する遊びを実現するための支援を行っている。日々の遊びでは、集団遊びを積極的に取り入れることにより運動機能と社会性・協調性の向上に力を入れている。児童クラブにおいては、保護者に対して日常的に丁寧な対応を心掛けていることはもとより、小学校と密に連携を図り、情報の共有や校庭利用等の協力体制を築いている。子育て家庭や小学生、中高生に向けた行事も豊富で、児童館事業の充実に努めている。	18/18

### 三 評価総括

#### 《指定管理者（特定非営利活動法人ワーカーズコープ）による自己評価》

子どもの最善の利益を優先に考えて、子どもたちの主体性や自己実現ができる活動に努めました。

○地域交流推進事業 子どもたちがハロウィンイベントを通して、何時でも駆け込み、命を守る「防犯マップ作り」を継続して行うことができました。更に江戸時代にあった回文団扇を復活させて、商店街や保護者の方々、先生方と共に小学校の授業で「回文団扇作成」を行いました。歴史や文化継承を学び多くの地域の方々との関わりを深め、共に生き、共に作り上げていくことを実感できる取り組みに力を注ぎました。

○児童健全育成事業 中学生の利用頻度が多いので、スポーツタイムや勉強ができるスペースを設けて居場所づくりの支援をしました。また地域性を生かしたサケの放流活動を今年度も継続しました。そして通信制の高校生を1年間ボランティアとして受け入れ、将来の夢実現へのきっかけとなりました。

○子育て家庭支援事業 児童館を居場所の1つとして認識して頂ける様に他団体や行政の方との連携・共催行事を実施しました。若林区家庭健康課との連携で歯科衛生士の方や栄養士の方の講話の実施、サークルさんと共催の「多胎児向けサロン」を実施しました。専門の講師の方を招いて産後ケアのヨガ教室を開催し、身体のメンテナンスとしてストレッチやトレーニングなど個別のニーズに合わせて支援しました。有志の保護者の方が子育て支援クラブ設立に向けて、イベントについて話し合う定期会議を行いました。

○放課後健全育成事業 乳幼児と小学生との関わりで「お店屋さんごっこ」を開催し好評を得ました。また子ども食堂の「はらぺこあらまち」で子どもたちが主体となってメニューから調理までを行い、自己実現や食育について学びました。集団遊びや運動で異年齢交流に繋げて関わりを深めました。本館・サテライトともに子どもたちの安心安全な場所の提供に努め、日々工夫を凝らして運営しました。

#### 《施設設置者（仙台市）による評価》

#### 総合評価

地域活性化の取り組みとして活動が広がった「回文団扇」は、大いに地域の活性化や交流に一役買ったことはもとより、小学校の授業として取り上げられるなど、児童にとっても団扇づくりを通して地域の歴史を知る良い機会となった。加えて、紙芝居を作り、歌を音楽発表会で披露するなど、児童館単体での活動の幅も広がるなど多岐にわたる成果をもたらした。そのほか、「毘沙門天祭りの稚児行列」や「荒町商店街の七夕づくり」、お店を訪ねるハロウィンパレードを活用した防犯マップ作りなど、かねてより地域に根付いた活動への積極的な関わりを継続しており、地域交流の拠点としての役割を十分に果たしている点が評価できる。

子育て家庭支援事業においては、多胎児を持つ親子向けの「ししの子チェリーズ」を開催し、交流を通じた情報交換や悩み相談の機会を提供し、参加者の好評を得た。より効果的なりフレッシュのため生演奏を取り入れた「カフェあらまち」や乳幼児のために小学生が準備を行うお店屋さんごっこも好評で、様々な趣向を凝らした事業を通して地域の子育て家庭を支援している。

児童健全育成事業では、クラーク記念国際高校と共催する「プログラミング教室」や日常的に受け入れている高校生ボランティアとの交流、子ども食堂での食育活動、当該指定管理者が運営する他の児童クラブとの交流事業として実施する社会体験や登米地域での自然体験など、豊富な体験プログラムを提供しており、これらの活動を通して子ども達の豊かな人間性や自ら学び考える力を育んでいる。

S

### 四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

#### 特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課